



広報 なかわだ

第 375号

2 月の予定

主の奉献	2 月	2 日 (水)
日本 26 聖人殉教者	2 月	5 日 (土)
子どもと共に捧げるミサ	2 月	27 日 (日)



Presentation of Christ at the Temple (Hans Holbein the Elder)

20 11年 2 月号

中和田カトリック教会
広報委員会発行

泉区中田北 1 丁目 9-1

Tel. (045) 803-6141

<http://www.paw.hi-ho.ne.jp/nakawadacatholic/>

平成 23 年 2 月 6 日



聖体奉仕者による病者の聖体拝領

主任司祭 小林 陽一

横浜教区典礼委員会は、「聖体拝領はミサにつながれている」という言い方で、病者の信者、高齢の信者が聖堂以外の所、自宅や病院で聖体拝領するとき、その聖体拝領はミサにつながれていることを示しました。

私たちの教会共同体の中で、「病の床にあるとか高齢などのために主日に教会に来ることができない兄弟もいます。私たちは、この兄弟にも心を配り、聖体を運ぶことによって、主イエスの愛と慈しみを示すことができます。出来ることなら、主日のミサの後に、共同体の一員として聖体奉仕者の方がその方々に聖体を運ぶことが望まれます」(横浜教区典礼委員会)。この考え方がミサにつながる聖体拝領となります。

聖体奉仕者については、従来、200人とか300人とかのミサがあったとき、一人の司祭では聖体拝領に時間がかかってしまうので、この問題を解消するために、信者の聖体奉仕者を主任司祭が任命するという考え方もありました。こうしたことの為に働く聖体奉仕者も大切ですが、病気や高齢のために教会で捧げられる主日ミサに来られない信者の為に働き、奉仕する聖体奉仕者も必要です。

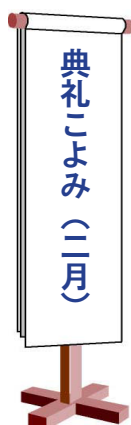
教区典礼委員会では、病気や高齢のために主日に教会に来られない信者に聖体奉仕者が聖体を運んで奉仕する際、事情が許すなら主日の福音書を朗読したり、説教の要旨を話すことも望まれますと述べています。

聖体を拝領する側の人は、聖体拝領にふさわしい環境を出来るだけ準備いたします。たとえば、テレビやラジオを消すとか、十字架やローソクを置いて周りを片付けるといった配慮も必要です。

事情が許せば、共同体の仲間や友人が聖体拝領をする人の元に集まり、共に病気の回復を祈ることも、病人にとって励ましとなるのではないのでしょうか。

聖体奉仕者は、「仕える者」として、謙虚にその役割を果たしましょう。司祭からご聖体をピクシス(容器)に入れていただき、適切な袋などに包んで出掛け、病気の方に会う前に他の用事をしたり、友人と雑談をすることなどは止めましょう。

教会の中で、主日のミサに参加できなかった病気の信者や高齢の信者の為に聖体奉仕者が奉仕することは、交わりとしての教会の教えを証しするものではないのでしょうか。ある意味で信仰を伝えるものであり、ごく自然に祈り支える教会共同体の力になるのではないのでしょうか。



日	曜		ミ サ ・ 勉 強 会	備 考
2	水	主の奉献	祝日ミサ(10時)	
4	金		初金ミサ(10時)	掃除
5	土	日本 26 聖人殉教者	主日ミサ(18時)	
6	日	年間第 5 主日	主日ミサ(9時)	
11	金		横浜教区典礼研修会	藤沢教会で開催
12	土		主日ミサ(18時)	掃除
13	日	年間第 6 主日	主日ミサ(9時)	教会委員会
19	土			掃除
20	日	年間第 7 主日		
26	土			掃除
27	日	年間第 8 主日	子どもと共に捧げるミサ(9時)	

ティアール・ド・シャルダン神父をご存知ですか

鶴田 恒之



私が生まれたのは1931年(昭和6年)、満州事変が勃発し日本軍が現中国北部に進駐した昭和の初め。大恐慌が見舞い、不況経済のなかに、当時の満州に活路を求めた時代です。

1937年、廬溝橋における日本の軍事行動によって日中戦争が始まりました。その頃私は、イエズス会司祭であったグロリア神父に連れられて、リヤカーを引いて三鷹から調布辺りの赤土の層の中から縄文土器の発掘をするお手伝いをしました。破片を集め、時々黒曜石のやじりを見つけました。私が考古学に興味を抱いたのは、その頃からです。その神父は、戦争が始まった1941年に、何処へともなく連れ去られ、復元された多くの土器は戦後まで司祭館にありました。

1960年頃、いずみ野の現警察署の裏で多くの土器が見つかりました。私は仕事もせずそれを集めて復元し、大学の教科書を読み漁って、3500年前の加曽利式土器であることが判明しました。現在、それらはいずみ野小学校に寄贈し、教材として役立てて頂いています。

表題のティアール・ド・シャルダン神父は、丁度私が生まれた頃に中国に派遣されています。考古学を通じて、シャルダン神父のことを知り、調べてみる気持ちになりました。

シャルダン神父は、1881年にフランスの貴族の家に生まれ、11歳でイエズス会のモンブレ神学校に入学、科学の成績は人並み以上に優れていたが、それ以上に信仰への献身が著しく、自らすすんで苦行僧となって、凍るような聖堂の中で好んで宗教書を読んでいたということです。

1911年、司祭として叙階され、アンステュー・カトリック大学に籍を置いて、地質学、生物学、哲学を学びました。しかし、その年第一次世界大戦が勃発、彼は司祭であるために戦闘には参加せず、看護兵として地獄のような戦場に赴き、そこから生き延びました。

帰還後、ダーウインの進化論を支持した論文「宇宙的生命」をイエズス会の定期刊行誌「エチュード」に送りましたが、掲載されることはありませんでした(後にド・ゴール勲章を受けている)。その背景として、当時バチカンでは進化論は容認すべきではないという考え方をしており、イエズス会も彼をフランスに留め置くのは好ましくないと判断、かれに中国に行くことを打診しています。当時、シャルダン神父のパリでの講演が注目され、聴衆や読者が増えていることに、イエズス会はもちろんバチカンもこのままにしておくことはよくないと考えたのです。

イエズス会はずでに1600年に中国(当時の支那)の天津に神学校を作り、教会を建て、博物館を常設していました。この博物館はエミール・リサン神父が管理し、化石や地質学上の発見物を収集していました。イエズス会の上層部は、中国に行ったらリサン神父と共に仕事をするように提案すると同時に、彼の異端的見解を捨てるように幾度となく伝えました。彼はその圧力によって、次第にパリでの地位を維持しがたくなり、服従を余儀なくされて、1922年に中国に行くことを承諾しました。

これが、化石との出会いとなり、進化論との繋がりを研究するもっとも適切な場に彼を派遣することになるうとはイエズス会は考えてもみなかったことでした。イエズス会としては、ただパリから追い出したかっただけのことだったのです。

1923年4月、シャルダン神父はマルセイユから船に乗り、スエズ運河を通り、遠くシナイ半島を眺めていました。船中から

故郷に送った手紙の中で、彼は「旧約聖書の出エジプト記に出てくる『燃える柴の間から聞こえる闇の声』が聞こえるかどうか知れたかった」と書いていたということです。途中、当時のフランス領インドシナ(現ベトナム)に立ち寄って、修道院で生涯を終えた姉のお墓に参り、その後は陸路列車を乗り継いで、天津に向かう650kmの旅を終えています。

天津では、リサン神父が収集した多くの化石の分類を手伝い、リサン神父に同行して奥地のモンゴルにも足を伸ばして人骨を探し求めましたが、臼歯一個を発見したに過ぎませんでした。6ヶ月近いモンゴル滞在中、彼はパリのイエズス会のブルーユ神父宛てに次のような「神に捧げる祈り」を送っています。

「主よ、パンもワインも祭壇もないこのアジアの砂漠の中で、あなたの司祭たる私は、大地を祭壇として、この苦勞のすべてを神に捧げます」。

信仰と科学と自然、そして霊性とがシャルダン神父の中で絡み合い、砂漠、地の果てから送った祈りなのです。

その後シャルダン神父は、1931年にアメリカに旅しました。アメリカ自然史博物館やコロンビア大学などで講演を行い、生物学者、化石学者など多くの科学者が参加しました。また人類学を学ぶ学生達にも大きな影響を与えました。3ヶ月の滞在の後、プレジデント・ガーフィールド号で太平洋を渡り、ハワイに立ち寄り、日本にも上陸しています。京都にも立ち寄った記録が残っています。さらに、アメリカのシトロエン財団の誘いで、車を使っている東アジア横断の冒険旅行にも参加しています。当時一緒に行動したアンドレ・ソバージュ氏はシャルダン神父のことについて次のように書いています。

＜控えめでありながら、注意を惹かずには置かない特徴をもち、並ぶ者のない流儀の持ち主である。ハーブシコードの音色を帯びた声、話し方、笑い声。変化のないほほえみ。教会中心主義的なところが全くない。物腰も身振りも気取りが全くない。そして、人を暖かく迎え、心を砕く一方、大理石のようでもあった。＞と。

この冒険旅行中、1932年1月1日には新羅ウイグル地区にある布教所で新年のミサを捧げ、その時の言葉が残されています。

＜新しい年を始めるに当たり、みなさんと共に、神の前で喜びを分かち合ひましょう。神の姿は、ここにいる人々総てにとって、まったく同じでないことは確かです。それでも人間なのですから、より高い、自らを超えた所に至高のエネルギーが存在し、この大きな存在の前で、私たちは今年の初めに心を落ち着かせなければなりません。私たちを包み込むこの普遍的な存在に、愛する人々、また遠く離れていても同じく新年を迎えようとしている人々に結び合わせて下さるように、お願いしましょう。＞と。

1934年、北京周口店に戻り、ヒト科生物の化石を求めて洞窟の発掘に精魂を注ぎました。

この間、研究室で共に働いた若き研究者が亡くなったり、神父に心を寄せる女性に対して「司祭として叙階していること。貞節の誓いを破ることは出来ないこと。」

を伝えるという経験もしています。この発掘によって、北京原人の化石が多数発見され、50万年前には火を使い、狩りをし、道具を使い、洞窟を住居としていたことなどが明らかになっています。これを機にイエズス会の注目がますます厳しくなり、神父の一言ひとことが注意深く吟味されるようになったのです。(⇒※)



『信徒の会』(仮称)の発足について

小野 雅彦 岩崎 好愛

1月30日の信徒大会でもご説明させて頂きましたが、ヨゼフ会は2010年度をもって終息し、新たに『信徒の会』(仮称)を発足させることになりました。この会の位置付け、性格、運営などについて、女性の方々にも参加頂いて数回お話し合いの機会を持ち、大まかな方向付けを議論して参りましたが、以下にその概要をご紹介します。

■会の目的：

- “横の連携”を深めて、信徒相互の親睦を深めること、一体感の醸成を目的とする（完全な親睦団体）
- 自由参加を旨とする会であり、老若男女を問わず、会員登録制はとらない
- お話合いのテーマそのものも、これからのお話合いで決めていく

■会の活動：

●定例会の運営

- ・誰もが自由に、感じたことや思ったことを分かち合ったり、意見を言える“雰囲気”をつくっていく
- ・会の開催日時は、第3日曜日のミサ後～11時30分頃まで

●親睦のためのイベントの企画・実行・運営

① 従来型のイベント

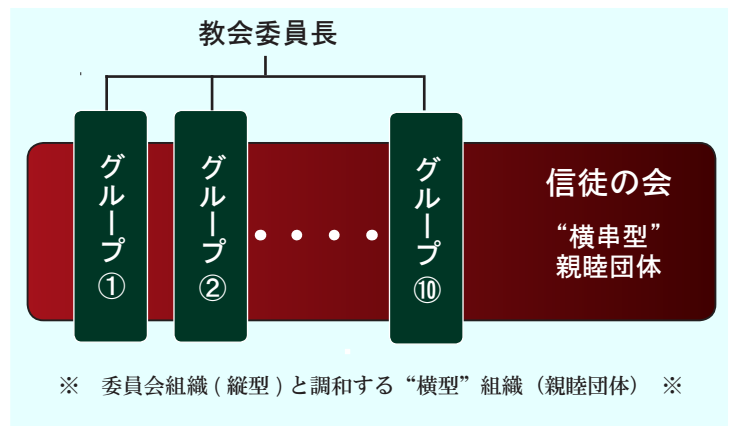
《例》 新年会、ガーデンパーティ、ハイキング、...

② 新たなイベントの企画・実行・運営

《例》 黙想会@修道院、ミニ巡礼、日帰りバス旅行、読書会、いろいろな勉強会、...

これから皆で相談しながら骨格をつくっていく
まだまだ“やわらかい会”です。

是非ご参加下さい。お待ちしております。



岩渕委員長の コラム



■ 1月30日の信徒大会に大勢の方に御参加頂き、誠に有り難うございました。風通しを良くし、コミュニケーションを活発化させる上で、全員が集まり議論する信徒大会は貴重な場だと思います。教会委員会としても皆様の御意見や御要望を的確に運営に反映させていくことが最も重要と考えておりますので、信徒大会の場のみならず、色々な議論できる機会を作っていきたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

■ 畑グループ（Garden Farm Group）から多額のご寄付を頂きました。これまで「教会聖堂に聖像を寄贈しよう」を合い言葉に畑の仕事をしてこられたとのことです。丁度祭壇、内陣回りのリニューアルに向けて検討が進む中、大変貴重なご寄付となりました。心より御礼申し上げます。

■ 今年から新たに信徒の会が発足することになりました。全員が自由に参加できる親睦と議論の場として、新しい発想でのスタートとなります。ガーデンパーティーなどの従来からのイベントのみならず、黙想会、読書会／勉強会、日帰りバス旅行など新しい行事も計画されとのことです。機能別縦方向の委員会組織に対し、横串を通す活動となり、教会全体の活性化と親睦が深まりますよう皆さんで盛り上げていって頂きたいと思っております。小野会長、岩崎副会長さん、宜しくお願い致します。

（※⇒）一方、1937年の廬溝橋事件をきっかけに始まった日中戦争によって、発掘作業は滞り、作業に従事していた作業員が日本軍の尋問を受けるなどの危険がでてきたのです。集めた化石の危険を感じた研究者たちは、アメリカに運び出すために船を用意し、化石は中国古生物研究所を離れることとなりました。その後の行方は、いくつかのレプリカの頭蓋骨を除いて、はっきりとは分かっていないそうです。シャルダン神父も日本軍の尋問を受けています。

現在、周口店の研究所の近くに、アメリカの彫刻家が復元した頭蓋骨が置かれています。（左の写真）

1947年、シャルダン神父はフランスに戻り、「現象としての人間」を執筆、イエズス会に出版を依頼しましたが、様々な要因によって却下され、再度修正しましたが、イエズス会の考えを変えることはできませんでした。

その後心臓発作に見舞われ、療養の日々を送ることになり、相変わらずのイエズス会からの軋轢に耐えながら、限らない情熱を人類の進化、神との繋がりや霊性を追求することに注ぎ、キリストの教えと進化の奇跡を調和させるために生涯を捧げました。そして、1955年4月10日、74歳でニューヨークにて帰天しました。

シャルダン神父の著書「現象としての人間」が人々の関心をよび、封印が解かれ、出版が許可されたのは、その年が終わる12月のことでした。

参考文献

- ・寺田 鴻 訳 「ダーウイン以来」「進化論の招待」
- ・渡辺 毅 訳 「ルーシー 謎の女性と人類の進化」「ティエール著作集」「旅の手紙」ほか数冊

委員会だより

△1月9日(土) 10名出席▽

小林神父の話し

●本年の指針

「若い人たちとともに歩む」という指針を今年も続けていきたい。但し、今まで具体的なことがあまり進展していない。若い人たちにいろいろな事柄について意見を求めて、バザーの運営や新しいイベントの企画などについてアイデアを貰うことを心掛けたい。

●別資料に基づく項目説明・議論

▽6月19日に堅信式が確定した
正門改造工事の件、武田さんご一家のご尽力で完了したが、今般司教館に報告書を提出し、了承を得た。
旧駐輪場のスペースは、身障者用駐車場や駐輪場など、多目的に使うことを含めてもっと検討をしたい。

▽12月8日付でカトリック中央協議会が発表した「アヴェマリアの祈り(試用版)」の件、意見を出して頂きたい

《Q》昔のように、先唱者が先読みする形態はとらないのか?

《A》その形態も可能であり、それも含めて検討して欲しい(小林神父)

▽横浜教区春期典礼研修会が2月11日に藤沢教会で開催される。テーマは『求道者と共に歩む信仰の道』

▽キリスト者一致祈禱週間に因み、カトリック横浜教区と聖公会横浜教区の共催で1月23日に「祈りの集い」が開催される。

▽NRC東京地区新年の集いが、1月22日に中和田教会で行われる。

●報告事項

●クリスマス総括・反省事項(行事委員)

▽サロンにはベトナム信徒の方々、子ども達が勢参加してくれた
▽サロンは新集会室で開催したが満員状態となり、静かにご降誕を祝う雰囲気ではなかった。(出し物を出す)

雰囲気でもなかった。

▽やってみたいとわからない部分もあり、係りをお願いするのに戸惑った
クリスマスサロン自体はよかったし、今後も「お茶とケーキ」ベースのサロンをやるのが良いと感じる

▽駐車を整理頂いた高田さんに感謝
持ち寄りは無かったが、用意したスープは良かった、豚汁も良いのではないかと、等の声があった

●「信徒の会」進捗状況

主旨や運営方法は既に報告済みだが、12月26日の例会で以下の事柄を決めた

▽自由参加を旨とする会であり、会員登録制はとらない(月次の会費徴収は行なわない方向)

▽1月16日の例会で、さらに確認・打合せを行ない、1月30日の信徒大会で内容を説明して参加ならびにご支援をお願いする

▽「信徒の会」という仮名称は変えたいが未だ妙案なし。当面この名称で発足するがアイデアを募っていく。

▽『ヨゼフ会』は2010年で終息とする

●掃除当番の件

月一回の「全員参加の掃除」を決めたが、人数が多過ぎるとの意見もあり、検討・調整中

●各グループの報告・提案事項

●宣教

▽堅信式の日程が正式に6月19日と決まったので、堅信に向けた勉強のスケジュールを具体的に検討する

▽湘南キリスト教セミナーを6月11日に鍛冶ヶ谷教会で開催することは既報の通り。1月16日に月例のセミナー運営委員会を開催する。

▽第5地区合同の要理学校ミニ運動会と夏の合同キャンプの準備はこれから

▽中高生会の活動は停滞気味だが、堅信の準備を起爆剤にして活性化していきたい

●営繕

▽ガス釜修理が完了した
▽12月の修理案件は全て1月中旬に完了の見込み

▽聖堂の内陣改修は復活までに完了するように注力するが、間に合わない場合には堅信式までに完了させる

●財務

▽建設会計の予算は、二五〇万円で設定したが、内二〇〇万円は内陣改修支払、営繕で三〇万円使用が見込まれており、残り二〇万円では不測の事態に対応が厳しいので再度検討する

▽併せて、数年後にやらねばならないことが確定している屋根の本格改修に向けて、引当金を特別計上しておくか否かも検討する

▽また放送設備も更改が必要となる可能性があり、建設・営繕関係の中期計画を策定して信徒大会で説明する
▽一般会計の予算策定の特記事項としては

・特別献金予算は(実勢に鑑み)三〇万円

・教育養成費予算は十万円

・維持管理雑費については大掃除委託費用など要検討

・消耗品費についてはコピー機まわり費用の精査必要

▽会計監査は1月23日のミサ後に行なう(監査人は保科さん)

●典礼

▽2011年も、塗油の秘跡は従来通り敬老祝福ミサで行なう(世界病者の日ではない)

▽司祭不在時の葬儀通夜式マニュアルを作成した

▽典礼奉仕者を募集している

●要理学校

▽2011年度は保科さんがリーダー、石崎さんが副リーダー、萱場さんが副リーダー兼会計の布陣で臨む

▽日程的には従来通り、第3を勉強、第4に子どもミサなど活動にあてる

▽教会委員会には上記3名が順番で出席する

●証し(福祉)

▽義援金送付先の報告(高齢司祭支援などを追加)

▽1月23日に大船教会で開催される『証し部門2011』の主旨・目的の説明(証し委員の集いではない)

●総務&広報

▽カラーコピーが出来るコピー機(注:プリンタとしても機能する)が導入されたので、広報なかわだの印刷をなるべく早くこれに切り替える。(長年、広報印刷は岩淵委員長のご負担に甘えて来た経緯あり、本来の姿に是正する)

▽既報の「なかわだの声」の原稿投函ポストを設置したので、ご協力願いたい

●討議事項(大会対応)

▽行事を担当する2012年度A/D地区代表の選出は、信徒大会までに行なう。

▽クリスマス・サロンは教会行事として2012年以降も行なうこととする

▽これに更に元旦賀詞交換会を行事に加えて、行事が計6回となる。

▽昨年は、バザー、復活の主日、降誕祭の3回しか予定していなかったが今年は多くなるので、地区代表選出後に集まって頂いて負担が偏らないように調整する

▽なるべく若手の意見を取り入れて進めて欲しい(小林神父)

以上

(次回は2月13日)

